

いばらきクラフトの新しいかたち展

—新製品開発プロモーション事業報告—

工芸・意匠部

繊維工業指導所 図案部

窯業指導所 工芸部

1. 緒言

生活用品に関係する県内の地場産業は結城紬、笠間焼、石材、木製家具等をはじめ、伝統的工芸品を柱とする幾多の産業がある。これらの産業は、固有の地域性を有しながら雇用の拡大や地域文化の形成に寄与するとともに、人々の生活に豊かさと潤いをもたらしてきている。

しかしながら、外にあっては消費者ニーズの多様化・個性化または NIES 製品輸入の拡大、商品ライフサイクルの短命化、モノ離れ現象など、さらに内にあっては後継者・若年労働者の不足や販路の縮小など厳しい経営環境にある。

このような中において、今日の地場産業は従来にも増して知識集約化、高度化等への取り組みが重要となり、創造的産業への転換が必要となっている。このような危機的経営環境を打開し、自然環境と伝統に磨き抜かれた固有の資源・資産に新しい息吹を与え価値創造の可能性を開く必要がある。

そのためには、中小零細地場産業間における融合化を醸成し、情報の共有、開発力の育成、新製品開発の機会の拡大が極めて重要であると認識される。

このような観点から、前年度においては関係団体の設立と事業育成を支援してきたところであり、今年度は、融合化の醸成、開発機会の拡大、さらには当所における開発製品の技術移転を目的とした標記の展示会の開催、並びに事業の継続的支援を行ったのでその概要について報告する。

2. 内容

4月 ○展示会媒体スケジュール確認会議

○展示会出品商品見分け会

展示会媒体商品写真撮影

5月 ○最終確認会議

○関係団体打ち合せ

「いばらきクラフトの新しいかたち展」

開催期日：平成元年5月26日～31日（6日間）

開催場所：（株）西武百貨店筑波店3階特別催事場

参加企業：17社、306品目

業種：木製家具、陶磁器、繊維製品、竹工品、和紙、漆製品、石材加工品

入場者数：約3,000名

報道広報：13 報道機関，17 回

展示会結果検討会（出展企業合同開催）

6 月 ○事後検討会議（西武関係者合同開催）

10 月 ○異業種交流懇談会の開催（笠間市）

交流団体：横浜工芸産業コミュニケーションプラザ，横浜芝山漆研究会

3 月 ○いばらき住まい博'90 出展協力支援

3. 結 果

この展示会は県のイメージ推進シナリオの構想に連動した地場産業の育成事業として位置づけ、現代のライフスタイルに適合した新製品開発を目指した関係団体の活動支援の成果を問う、初の試みとして行ったものである。商品展示では極力生活提案型の構成に努め、融合商品コーナー、生活提案コーナー、実演コーナーで構成し、かつての生活必需品であった工芸品を再度、今日の生活必需品としての位置に取り戻すと同時に、県産品の高い技術もアピールしようとする狙いがあった。それぞれのコーナー、商品とともに素材の融合、イメージの融合を進め、結果として新製品の提案、生活シーンの提案に従来にない新しい地場産業の姿を紹介することが出来た。

会期の前後には新聞 14 紙，ラジオ報道 2 局，テレビ放映 1 局など多くのパブリシティで報道され、さらには、連日の入場者数も 3,000 名をこえるなど、地場産業からの提案、新しい地場産業のあり方に極めて強い感心が示された。見学者には新しい地場産業の姿を、出展企業には消費者の生のニーズと開発の機会を共に提供する場として十分に当初の目的を実現できたものと自負する。

なお、前年度から引続き行ってきたこれら一連の地場産業振興に関する事業については、講習会、開発指導等を含め「地域工芸品の振興に関する事業報告書」として、別途取りまとめたので参照されたい。

最後に、当展示会の開催に際し、商品開発のアドバイスや展示機会の提供にご協力をいただいた（株）西武百貨店筑波店の湯川店長はじめ関係者の方々に厚くお礼申し上げたい。



いばらきクラフトの新しいかたち展



同左展示会会場風景